

KGA

'00春季号
2000年5月1日発行



NO.70

目次

福田理事長	1999年度総括と2000年の活動方針	1
ゴルファーのためのマナー基礎講座(5)	新規加盟俱楽部紹介	14
シニアにひと言	平成12年度 関東ゴルフ連盟 役員・委員一覧表	16
ジュニアスクール	総会・理事会・分科委員会	18
道陥し、ジュニア育成	月例競技成績表・お知らせ	28
座談会		
女子委員大いに語る		10

新規加盟俱楽部紹介	14
平成12年度 関東ゴルフ連盟 役員・委員一覧表	16
総会・理事会・分科委員会	18
月例競技成績表・お知らせ	28

表紙Photo KGA春季ジュニア・ゴルフスクール 茨城ゴルフ俱楽部(撮影・石川博英/KGA広報委員)

 関東ゴルフ連盟

総会

福田理事長

1999年度総括と2000年の活動方針

写真・石川博英 (KGA広報委員)



福田 彰 理事長

長いKGAの歴史の中で、1999年は特筆すべき1年でした。総括として、さまざまのプラス、マイナス要因を指摘したいと思いますが、どのことも21世紀のゴルフ界を占う、象徴的な事柄であったと思います。

先ず、「関東オープンの終焉」を取り上げたいと思います。このことにつきましては、「KGAニュース」「関東オープン50年史」「関東オープンプログラム」等にて、私の見解を述べておりますが、まさしく「断腸の思い」で決断致しました。

昨今の経済状況を考え、また歴史的觀点から、開催意義が希薄になったと考え、皆様におはかりし、決定した次第です。オープン開催に要した資金は、アマチュアゴルフの原点に立ち戻り、その健全な発展に有効に活用したいと考えた次第であります。

また、国連難民救済のためのチャリティ募金は

8年間で108,549,497円の净財をご寄付いただきました。他にも、オープン開催県、市町村の福祉団体に2,500万円を寄付いたしました。ご協力に感謝いたします。

しかし、私は、関東オープン終焉、即チャリティ中止というのはいかにも心さみしい思いがしてなりません。金額の多寡にかかわらず、永く継続することが眞のチャリティ活動だと思います。関係委員会に検討を指示する考えでおります。

それにしても、「長野大会」は有終の美を飾るにふさわしい見事なものでありました。開催俱楽部の長野カントリーの皆さん、長野県内のゴルフ関係者の諸氏に、ここで改めて心よりお礼を申し述べたいと思います。

 “国体元年”とあるべきゴルフの姿

次に、「国体ゴルフ」にふれたいと思います。



JGA KGAについて建設的な意見を述べる古賀剛大氏（ノースショアCC 北浦コース）

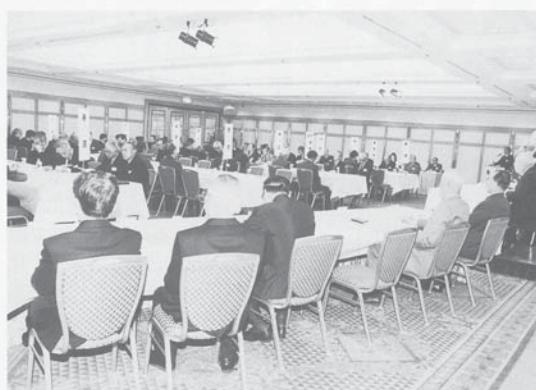
ご高承のよう
に、昨年の熊本
国体よりゴルフ
は正式種目とな
り、47都道府県
において、選手
選抜競技会、ブ
ロック大会等が
開催されました
が、必ずしもき
ちんとした開催
運営がなされた
とは思われませ
ん。KGAでは1

都10県、埼玉ブロック大会の実施規定、特別ルールをチェックいたしましたが、中にはどうにも困った県がありました。

私は「ゴルフはゴルフであり、JGAゴルフ、国体ゴルフの別があつてはならない」と主張してま
りましたが、残念ながら一部の県においては懸念が適中しました。

各都県アマチュアゴルフ団体（体協）とは組織的な問題もあり、KGAとして積極的に関わらず、歴がゆい思いをいたしておりますが、ここは共に手を携え「正しいゴルフ」の普及と発展につくすべく、諸問題に取り組みたいと考えております。

次に、JGAハンディキャップの普及、啓蒙問題



であります、KGAは一昨年より全加盟俱楽部に「G-sys」を無料貸与することとし、精力的に事を進めてまいりました。今年は、3年計画の最終年に当たり、所期の目的である関東エリアのネットワーク完成、つまり、「いつでも、どこでも、だれでも」JGAハンディキャップが取得できる体制を作りたいと考えております。

言うまでもなく、ハンディキャップは加盟俱楽部メンバーだけのものではなく、体協会員、ノンクラブメンバーなど全ゴルファーに必要なものであります。KGAでは、他地区連盟に先駆けて1都10県のアマ團体、関東地区パブリックゴルフ場にも「G-sys」の無料貸与に踏み切りました。

私は、JGAを通じ、全地区連盟、全ゴルフ場に働きかけ、全国JGAハンディキャップシステムの完成に努力したいと考えております。

私は、昨年、KGA分科委員会活動の活発化を提言いたしました。各分科委員会それなりにきちんと職務を全うしていただいたと評価しておりますが、とくに新設の「競技・規則研修委員会」の活動は際立っていたと思います。競技規則、競技運営にはそれなりの経験と知識が必要であります。先述の「都県国体選手選抜競技」において一部混乱が生じたことは、いわば「国体元年」であり、無理からぬこととも言えましょう。各都県にKGA分科委員のようなエキスパートを養成することは、急務のことであり、その任に当たるのはKGA、

JGAの責務であります。今年度は、各種講習会、研修会を各都県アマ團体、ゴルフ場協会と共に催す形で積極的に取り組みたいと考えております。

減少するジュニアゴルファー問題

次にジュニア育成問題であります、昨年は、悪質な不祥事は生じませんでした。警鐘をならし、育成委員会に、モラル向上のための活動を指示しましたが、それなりの効果があったと言えましょう。

しかし、ジュニア問題のもう一つの重大事は、年々ジュニアゴルファーが減少していることであります。現在、ティー

シェイジャーは、1,600万人おるそうですが、その中でジュニアゴルファーはわずか1.3%、約20万人であるとの調査報告書目にしました。（10年度「レジャー白書」）野球、サッカーは20%であります。

このことは、ゴルフ界にとって大問題であります。少子高齢化の影響はゴルフ界にもおよびつつあります。個々のゴルフ場の経営問題に直接関与できないKGA、JGAとして健全なゴルフの振興、ゴルフ人口の増加、発掘こそ唯一、無二の責務であります。

なぜ改革委員会を設置するのか

最後にゴルフ場利用税問題について所感を述べます。

ご高承のよう、撤廃に向けて全ゴルフ界をあげて、署名運動を中心に活発な活動を展開いたしましたが、残念ながら所期の目的を達することはできませんでした。

しかし、私は、文部省が省議決定し、自民党税調委員会の俎上に乗ったことは、大きな前進と考えております。私事にわたりますが、私は国親連の関係者として料飲税の撤廃にとりくみ、10年の歳月を要し、ようやく本年4月1日をもって実現しました。

その意味で利用税問題は一步も二歩も前進したと評価する次第です。税理論的には、消費税との二重課税であり、誰しもその矛盾は認識しております。地方財政の逼迫度は、ますます増し、撤廃条件はいっそう厳しくなっておりますが、全ゴルフ関連団体が一致協力して、活動を継続することが重要と考えております。

以上のように今、ゴルフ界は、大きな転換期を迎えております。これまでのよう(財)日本ゴルフ協会を頂点とし、8地区連盟、1,500余の加盟俱楽部、150万人の俱楽部会員だけで、アマチュアゴルフ界を構成し、活動運営する時代ではなくなったと思います。

47都道府県にアマチュアゴルフ団体が結成され、国体の正式種目となった現実

を注目し、共に手を携えて将来の日本ゴルフ界の健全な発展に寄与すべく活動しなければなるまいと考えます。

また、長引く経済状況は加盟俱楽部にとって、大きな痛手となり、一部においては、存亡の危機ともいうべき事態が生じております。このうようにゴルフ界全体が大きく変貌し、苦境にたたされている今は、アマチュアゴルフ界の重要な主体としての関東ゴルフ連盟はどうあるべきか、来るべき21世紀のゴルフ界に果たすべき責務は何か、そのための組織、財政、競技はどのようなものでなければならないか——私はこの重要命題を検討すべく「関東ゴルフ連盟改革実行委員会」を設置いたしました。各都県より11名の委員を任命し、いわば「新関東ゴルフ連盟」結成ともいうべき重要命題を詰めました。同時に11名の委員には、各都県においても同様の委員会を設置し、広く公論を興し、明確な方針、具体案の策定を要請いたしました。

このような苦境時こそ、1ゴルフ場、1団体、1都県、1地区連盟の利害に捕らわれず大同団結して、日本ゴルフ界全体の健全な発展のためになにが必要か、英知を集める必要性を痛感したからであります。

皆様のご協力、ご尽力を心よりお願いするものであります。



⑤ ゴルファーのためのマナー基礎講座

シニアにひと言

文・杉山通敬（KG広報委員）
カット・山縣和彦

◆立派なオトナのいない社会は堕落する◆

平凡社発行の『コロナ・ブックス』69号（1999年8月25日刊）のタイトルは〈白洲次郎〉である。その中に辻井喬氏が「自由人 白洲次郎」というエッセイを寄せている。

少しばかり引用が長くなるが、勝手ながら紹介させて頑く。

「これは白洲さんが比較的晩年のことである。たまたま彼が、理事長をしていたゴルフクラブ（筆者注：軽井沢ゴルフ俱楽部）のベランダで休んでいた時、一人の若者があたふたと駆けこんてきて、「これから田中がプレイしますのでよろしく」と挨拶した。

だいたい事情を察した彼は、

「田中という名前は犬の糞ほどたくさんあるが、何處の田中だ」

「総理の田中です」

その秘書らしき青年が著しく気分を害した面持ちで応えると、

「それは会員なのか」

とかぶせての質問が出た。

その頃は財界人も小粒になって「総理」と聞くとお辞儀をしてしまう程度の人物が多くたから、日頃とはいささか違う趣に青年はひるんで、

「いえ、会員ではありませんが総理です」

「ここはね、会員のためのゴルフ場だ。そうでないなら帰りなさい」

そう言うと白洲さんはそ

っぽを向いてしまったという。そこに敗戦直後、占領軍総司令部を相手に一歩も退かなかった白洲次郎がいた。

後日、いい話を聞いたと思って白洲さんに事の真偽を確かめると、

「そんな失礼なことは言わないよ。ただ訳を話して帰ってもらっただけだ」

との答えであった。

この話は折にふれ、話題になる有名なエピソードである。過日も当号発行のために開かれた広報委員会でも話題になり、誰言うとなく、

「むかしは白洲さんのような怖いオジさんが、どこのクラブにもいたものだけれど、最近は見掛けなくなったばかりか、むしろ年輩のゴルファーのほうが堕落している」

と言い、こもごもに具体的な事例を挙げ出した。プレーが遅い。スパイクマークを直さない。雨が降り出すと茶屋に居座ったままなので後続組が進めなくなる。食堂で特別扱いをされたがる、等々。本来なら若者の手本となるべき年輩者が、悪い手本をしめしている。

だけれども、そうした行為振舞いに誰も注意をしない。相手が年輩者なので敬して遠ざかるからだ。

「ジュニアのことがしばしば問題になるけれど、シニアはもっと悪質なのであるまい。オトナが悪い見本をしめしたら、子供が非行にはしるのは自然の成り行きだもの」

「ぼくらは先輩ゴルファーのやっていることを見習い



ながらゴルフを覚えさせてもらった。なかには反面教師もいたけれど、ああいうゴルファーにはなりたくないと思って自我の糧とするところがあった」

「ゴルフはある意味で“ひと真似”的”のゲームですよね。エチケットにせよ、クラブハウスやコースでの立居振舞いやプレーの進め方についても、最初の頃は何も分からないので先輩ゴルファーのやっていることを見習って“真似”して覚えてきたんじゃないかな」

「まなぶはまねると同じ意味だというから、“先人に学ぶ”ということは“先人を真似る”ことにほかならない。その先人の多くが反面教師になつたら、悪貨は良貨を駆逐するの警えで反面教師そのものを真似る若者が多くなる」

反省するは我にあり、といった調子で一同、自戒の念を深くしたのだった。広報委員のほとんどが60歳であること、ひとごとではない思いにさせていたかもしれない。

われわれの先人に井上信（1883～1968）がいる。1918年の『日本アマ』に日本人として初めて勝ったゴルファーである（それまでは外人の優勝者ばかりだった）。

終戦の年、彼は62歳であったが、戦後はほとんどゴルフをしなくなった。その理由を『程ヶ谷50年』（年史）につぎのように書いている。

「僕がゴルフをやらなくなつたことについては血圧が高いこと、足が弱くなったこと、ゴルフをやりだしてノロノロ歩いたりして人に迷惑をかけたりするのが嫌になったことなどの理由が挙げられるが、実はそれだけではないのだ。正直なところを申せば負けるのが嫌だからだ。敬老会のトーナメントに出ないかと、いつもご親切にいっていただいているが、出ないのはゴルフが下手になつて負るのが嫌になったからだ。金言もあるように「獅子はネズミをとるのにも全力を尽くす」ということだが、いいかげんなことは絶対禁物と



いうのが自分の信条だ」

井上は“エチケットの鬼軍曹”といわれていたそうだら、いかにもそれらしい潔い引退の弁であるが、これをすべての年輩ゴルファーにあってはめるのは老齢化社会の今日、からずしも当を得たことはないであろう。「人生80年」になったのだから、いつまでも元気でゴルフを楽しんでいただきたい。

「長老がひとり亡くなることは図書館がひとつなくなるのと同じことだ」

というアフォリズムがあるくらいだから、いつの世でも若者は長老を敬う。真似て、学びたいと著者はいつも思っている。

十有五にして学に志し、三十立志、四十不惑、五十天命、六十耳順、と人生を経て来て、「七十にして心の欲する所に従いて矩を踰えず」と孔子は自分の人生航路を振り返った。

70歳になったら、自分がやりたいようにやっても世の中の規律から外れるようなことはやらない、という意味だとか。自由自在の至上境に達したわけで、このような心境でゴルフ三昧の老後を過ごせたら、ゴルファー冥利につきのではあるまい。

ご自身は、規律を示すなどとは思わなくとも、周囲の人びとに「これぞ、ゴルファーのお手本。みんなで見習わなければいけないな」と思わせる、そんなゴルファーがたくさんいるゴルフ場が良いゴルフクラブなのではあるまいか。

本当は“怖いオジさん”も“うるさいオジさん”もいなくていいのだ。見習いたいゴルファーばかりであれば、良貨が悪貨を駆逐して自然淘汰されると思うからである。

弱輩者の未熟者が自分のことを棚に上げて、こんなことを書いてはヒンシュクを買うばかりであります、自戒の念を込めて敢えて言わせてもらいたいのです。「立派なオトナのいない社会は堕落する」と。

道陥し、ジュニア育成

文・吉川英明 (KGA広報委員)

写真・石川博英 (KGA広報委員)



今年も、春のジュニアゴルフ・スクールが3月下旬から我孫子ゴルフ俱楽部、桜ヶ丘カントリーク

ラブ、佐倉カントリー倶楽部、鷺之台カントリー倶楽部、ノーザンカントリークラブ、セントラルゴルフクラブ、茨城ゴルフ倶楽部の7会場で開かれた。

このところ、年々スクール参加者の漸減傾向が続いているが今年も例外ではなく、スクール650人、親子スクール37組といずれもこの5年間最低だった。

だが、出てくる子供たちは皆元気がいい。筆者が見に行った茨城ゴルフ倶楽部西コースにも130人のジュニアゴルファーが集まって、春にしては冷



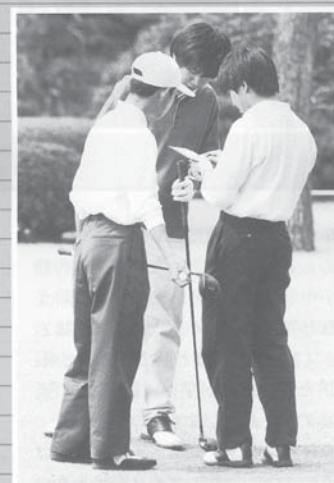
たい風の吹く中で、熱心に指導を受けプレーを楽しんだ。

練習場で見ていると、小学校低学年の中には、いかにも重そうにクラブを振り回しながらも、既に的確にボールを捉えるスイングを身に付けている生徒もいて、微笑ましくもあり頼もしくもあった。

とは言え所詮は小学生、飛距離は知れている。ショートホールを除いては、ティインググランド前のフェアーウェーからティーオフさせているのだが、例年時間的に18ホールを消化できない組が

何組か出る。そこで今年は、スタートを1番、5番、10番、15番と四つに分けて同時にスタートさせた。競技ではないのだから、無理にそこまでして18ホール回らせなくてもという声もあるが、やはり全ホールプレイしたという満足感は子供たちにとって掛け替えのないものだろう。

だが、嬉々としてラウンドしている子供たちの表情を見るにつけ、スクールへ参加者即ちジュニアゴルファーの総人口が年々減っているという重大な問題を何とかしなければという責任を感じてしまう。





野球とかサッカーなどに比べて、ジュニアのゴルフ人口が圧倒的に少ない原因は“ゴルフには金が掛かる”ことと“手軽にゴルフができる場所がない”的二点に尽きる。

小学生受講者の父親たちに最大の問題は何かと訊くと、異口同音に「お金が掛かるということですねえ」というため息が返ってくる。

練習場のボール代も馬鹿にならないし、ゴルフ場のグリーンフィーともなればなおさらである。その上、小学生となると普段の日にラウンドを許

してくれるゴルフ場など皆無に等しい。

用具の問題もある。高校生ともなれば大人の物も使えるが、小中学生はそうもいかない。安い子供用のクラブなど売っていないから、父親たちは古いクラブのシャフトを切って使わせているのだが、この年頃の子供たちは成長が早い。極端な場合、一年経つと短過ぎて使えなくなるという。

つまり、今の日本のゴルフ界は、子供たちがゴルフをする環境はない、いや、ゴルフが出来ない環境なのである。

先ごろ、JGAや男女のプロゴルフ協会をはじめ、

ゴルフ場や練習場、用具などゴルフ関連の諸団体で作るジュニア育成連絡協議会が発足し、こうした問題に取り組む下地が出来上がったが、それと具体的な成果を見るまでには時間がかかる。手っ取り早く成果を上げるには、やはり財源が必要である。

私見だが、この際、ジュニア育成基金といったようなものの創設が必要なのではなかろうか。資金集めには、ゴルフ場のフロントに募金箱を置く方法もあるだろうし、もっと徹底するなら、JGA加盟俱楽部の来場者一人一人から数十円づつでも

育成基金を徴収するといったことだって視野に入れていい。

こう言うと、一見ゴルフ場利用税を撤廃してゴルファーの負担を減らそうという流れに逆行するようだがそうではない。

謂われなき税金はごめんだが、子供たちへの援助なら一肌脱ごうという大人たちがいて欲しいのだ。

こう書いてきて淋しいのは、今の日本の一般ゴルフラーのジュニア育成への関心の薄さだ。

まずは、大人たちの教育が先決か？

座談会

女子委員 大いに語る

司会
高橋正孝 (KG広報委員長)

出席者
加藤勝栄 (KG競技・月例委員)
山根ミドリ (KG広報委員)
湯原光葉 (KG月例委員)

陪 席 佐藤 清 (KG事務総長)
カット 山縣和彦
写 真 片山晴美 (KG広報委員)



高橋正孝委員長
(日高カントリークラブ)

高橋 今年度より、21名の女子委員が誕生しました（含兼任）、競技委員5、ハンディ3、月例4、広報1、ジュニア7、コース選定委員1名の皆さんです。

ゴルフ界は歴史的に見て男性社会であって、KGも男性の委員がすべてお膳立てして、“ハイ



どうぞ、プレーなさって下さい”で遇してきた。しかし、ゴルファーの13%が女性であり（約200万人）、軽視できなくなってきた。

そこで、関東女子ゴルフ界の中から、委員にふさわしい方々にご苦労いただくことにしたのです。私は個人的にもっと早くにお願いすべきだと考えていたのですが、いろいろ事情があったようで（笑）、今日になってしまった。理事長以下、皆さんに大いに期待しております。

加藤 よく判りました。しかし、たしかにちょっと遅すぎた（笑）

山根 広報委員は私一人、心細い（笑）各委員会、今の倍の人数でもいいのじゃないかしら。

高橋 よく判りました（笑）、来年からそうしましよう……と言いたいのですが私が言つては安請合いになる。いずれにしても皆さんはゴルフ界の平塚らいてふ（社会運動家）さんなんです。（笑）

加藤勝栄さん
(相模原ゴルフクラブ)



湯原 「元始、女性はゴルフ界の太陽であった。」
(笑)

出でよ “お叱り老人”

高橋 冗談はさておき、これは某委員長に聞いた話ですが、男子と比べて女子の方がプレーも速く、マナーも良いとのこと。どっちかというと女性嫌いで通っている某さんがいうのだから間違いない（笑）。

佐藤 たしかにそうですね。なぜかということを考えたことがあります、女子ゴルフ界には皆さんのようなこわいオバサン、いや失礼（笑）がいらして、きちんと注意しているのを何度も目撃している。一方、男子はそうはいかない。関東アマに出てくるような男子はみんな名うでのゴルフ上手であるが、球打ちのうまいことが、マナーの良さとイコールになっていない。そして厳しく指導するにも腰がひける。昔のような“お叱り老人”がいなくなった。（笑）

湯原 ゴルフ場にしてみれば、シングルプレイヤーも、ビギナーも同じお客様であって、「貴方はコースに出るにはまだ3年早い、もう少し、修練してからいらっしゃい」なんて言えないのじゃないかしら。この点、ゴルフ場経営者でもある高橋委員長におうかがいしたい。（笑）

高橋 いや厳しい質問で（笑）、私は普段の日と公式競技、とくにKGA、JGAの主催競技にコースをお貸しする日とは区別しております。普段は楽しく、競技は厳しくをモットーとしている。これではいけないかな（笑）

山根 その意味で、関東月例はいい場じゃないか



しら。湯原さんは、JGAのナショナルチームの女子委員でもあるわけですが、限られたエリート選手の育成も大事ですが、それを支える選手層もきちんと育成しないと。

佐藤 ところが昨今の月例出場者は開催意義について意識が希薄になっていませんか。

加藤 2月の月例競技で優勝した阪田さんが“このような競技を行っているのはKGAだけで、他地区連盟は開催していない。みんなうらやましがっている。この事の意味をよく考えて、私たち参加者も心したいものだ”とスピーチなさった。その通りだと思います。

佐藤 過日の月例委員会で申したのですが、毎月女子の出場者が50名前後いらっしゃる、その平均年齢を調査したら、48.2歳だった。これはちょっと考えなければならない。（笑）

湯原 よかった私はずっと下（笑）たしかに女子の場合、育児、家事のことを考えると、どうしても年齢は高くなる。でも工夫して若い人にも出場できる方法はないかしら。



山根ミドリさん
(日高カントリークラブ)



佐藤 例えれば、春休み、夏休みの時期はジュニア枠を設けエントリー費、プレー代も考慮してあげる。

加藤 そして組み合わせは「うるさいオバサン」と一緒にして、優しく指導する(笑)

ドレス・コードは必要か?

高橋 それはいいですね。月例委員会に提言しましょう。

さて、女性ゴルファーとなると、服装、お化粧など大変に気をつかっているのじゃありませんか。とくに、若い女性の場合、男の目で見ると気にかかる。といって、なかなか指摘、指導となると難しい。

加藤 私は若い女子には、はっきりと注意します。

佐藤 そのパンツは短かすぎるとか、化粧が濃いとか……おそろしい(笑)

山根 どうなのかしら、女性が女性に注意するの

と、男性が注意するのと受けとる方は微妙に違うかも知れません。男性から指摘されるのはきついなあ(笑)

湯原 そうそう、昨年の熊本国体に出場した人から聞いたのですが、スニーカーとトレパンがユニフォームになっていて、開会式、閉会式はもちろん、クラブハウス入場の際も着用が義務づけられていたそうです。これは、なんとかしてほしい。

加藤 47都道府県、それは見事にバラバラの色で、なんともはなれて見ると熱帯原生林みたいだった(笑)。私もまいりました。

山根 関東女子の決勝表彰式、パーティはそれなりにキチンとしてましたね。ゴルフにはゴルフにお似合いの服装、色調があるとおもいます。

高橋 といって、日体協、JGA問題なので、KGAとしてはなんとも……。実はこの前のKGAジュニア委員会でも、ドレスコードを決めるべきだとの意見が多くて検討中ときいています。といって、服装、色調は多分に個人の好みの問題でもあるので規制しにくいことも事実ですよね。

佐藤 何年か前の女子のパーティで、これまた某理事が、ジュニア諸君が上衣、ブレザーを着用しないでバナナを食べる姿を見て“いつから上野の猿山になったのだ”と、激怒したことがあった(笑)

男性でもそうですよ。月例ではキチンとした人でも、関東アマ決勝となると、スパイクちゃかちやか、ブレザー着用なしで入場する人が跡をたたない。これなんか、男のわれわれが注意するより、女性の委員からやんわりと注意していただいた方が、効果があるのでは(笑)

山根 たしかに、女性ゴルフ部の服装は、他の競技や他のスポーツと比べて、より個性的で、個性を出したいという意識が強い。しかし、それが競技としての技術水準を下げる要因にならないか心配です。

湯原光葉さん
(烏山城カントリークラブ)

湯原 一方、去年問題となった女子競技でのキャディいじめ、これは男性からきちんと注意いただいた方が角がたたない(笑)。

高橋 とゆうわけで、男子、女子委員の皆さんが、TPOで事に当たるのが理想的かもしれませんね。

さて、最後にいい機会ですから、これからはKGAに対して忌憚のないご意見をうかがいたいと思います。

ぜひとも女子俱楽部対抗を

湯原 では、私が耳にしております女子の声に、まずエントリー費を安くしていただきたいと思います。関東女子25,000円、日本女子30,000円はこたえます。

加藤 私は競技会場、とくに予選会場の選定について、ご一考いただきたい。決勝会場は遠方でもかまわないので、予選は近畿のコースにしてほしいと、大ぜいの女子から注文がでています。

山根 では私も一言、ぜひ女子の俱楽部対抗競技を新設いただきたい。ご承知のように、報知新聞社の主催で行われておりますが、年々さかんになっており、現在50ちかい俱楽部が参加しております。しかし、各俱楽部の対応がマチマチで、男子のそれと同じようにしている俱楽部、“いや俱楽部名は使用してもよいが、それ以上の応援はしない”という俱楽部といろいろなんです。これがKGA主催となりますと、公式競技と

して認知されることになりますよね。ゴルフ振興策と一案としてぜひご検討いただきたい。

高橋 以上の各委員会要望に対して、事務総長、ぜひご答弁いただきたい(笑)

佐藤 いやあ！まいりましたね(笑) 善処いたしますでは大臣答弁になるし(笑)

たしかに、よく判ります。しかし皆さんのご要望は、KGAの組織、財政、競技の基本的な問題でして、高橋委員長にもお願いしてあります、「特別委員会・KGA改革実行委員会」の問題として、鋭意協議検討中であります。年内にもその答申がでかがりますのでその中で具体的にお答えしたいと思います。以上、官房長官としての答弁であります。(笑)

高橋 いや、今日は有意義かつ手厳しいご意見ありがとうございました。みなさんのご活躍を期待いたします。



鋭い発言に委員長もタジタジ

新規加盟倶楽部紹介



笠間東洋ゴルフ倶楽部

1. 倶楽部名 笠間東洋ゴルフ倶楽部
住 所 〒309-1602
茨城県笠間市池野辺2340-1
電 話 0296-72-8126
F A X 0296-72-8212
2. 開場年月日 昭和60年10月12日
3. 理事長 渡辺 晴 (S5.1.20生)
俱楽部代表者 小山田裕昭
4. 俱楽部分科委員長 選任中
5. 支配人 山崎 英昭 (S16.10.6生)
6. 倶楽部概要

当俱楽部は、茨城県のほぼ中央に位置し標高100メートル余り高低差26メートルの東南に向かって開け、まさにゴルフ場の適地と呼べるコースです。

コース設計は井上誠一氏が行い、広々としたフェアウェイとラフ、曲線のきれいなバンカー。

美しく大きなラテラルウォーター・ハザード、広い掌のように微妙なアンジュレーションを持ったグリーンが特徴的な井上誠一氏が最後に手掛けたコース。名匠の高度な戦略性と造形美が征服意欲を刺激するコースです。

名物ホールは16番ミドルホール、ティグランドからグリーンまで広がる大きな池に沿ってドッグレッグしており、攻略ルートは2つあり安全ルートは、フェアウェイ中央狙いで3オン狙い。もう1つは大胆な池越えを狙う2オンルート。リスクは大きい、しかし成功すれば170ヤード前後で2オンは容易に狙える。景観の美しさと戦略性を兼ね備えたコースです。

コース内には山桜など20種もの桜や、200種以上

の樹木が彩りを添えているが、相当数は移植によるもの、中には200年もの樹齢を誇るうわみず桜などがあるが、移植の難しい老木が活着するだけの条件の良い土地柄である。

アクセスは、首都高速～常磐自動車道・三郷IC(82km)より水戸ICでおりて、国道50号(笠間・下館方面)3km走って、内原駅入口交差点を右折し4kmほどでコースです。

又、電車では常磐線上野駅から友部駅で下車し(約70分)友部駅からタクシー(約20分)でゴルフ場です。

オリムピックカントリークラブ



1. 倶楽部名 オリムピックカントリークラブ
住 所 〒409-0125

山梨県北都留郡上野原町野田尻3085

- 電 話 0554-66-2211
F A X 0554-66-2417

2. 開場年月日 平成2年8月15日

3. 理事長 椎名時四郎 (M40.1.19生)

俱楽部代表者 椎名時四郎、府川 勉

4. 俱楽部分科委員長

コース委員長 淡河 義正

競技委員長 府川 勉

ハンディキャップ委員長 山野 正登

5. 支配人 仁平 宰 (S19.8.31生)

6. 倶楽部概要

当俱楽部は、全ての季節を通しキャンバー、ハイカー、自然を楽しむ方々が数多く訪れる、相模湖の西約8kmに位置する、イーストコース18ホール(6,958ヤード・パー72)、ウエストコース9ホール

ル(3,213ヤード・パー36)、計27ホールのゴルフ場です。

コース設計はダイ・デザイン社による、なだらかな丘陵地帯に広がるオールドスクォッシュスタイル、柔らかな曲線のつながりで構成され、雄大なホームホールからピンポイントのショットを要求するホールまで、バラエティ豊かなコース設計です。

また、グリーンは全てペントの1グリーン、フェアウエイには暖地型洋芝「ティフトン419」と寒地型洋芝「ペレニアルライグラス」を併用している為、1年を通じてエバーグリーンのターフをお楽しみ頂けます。

名物ホールの1つであるイーストコース9番(561ヤード)と18番(576ヤード)は、池を挟み並行するロングホールでクラブハウスからの景観にも花をそえます。クラブハウスに向かって広がるこのホールは、各ショットで狙うポイントがしばられており、プレイヤーの方々には、滝、岩、池、芝が美しさだけでなくアイデアに満ちた戦略を創り上げる喜びをお楽しみ頂けます。その他、池越えのショートホールなど名物ホールに負けない魅力を持ったホールが数多くあります。

アクセスは、中央自動車道・上野原インターより約13km、電車をご利用の場合は、JR中央線・四方津駅下車(クラブバス有り)、共に都心より1時間でご利用頂けます。

ワイルドダックカントリークラブ



1. 倶楽部名 ワイルドダックカントリークラブ

住 所 茨城県鹿島郡神栖町日川2519

電 話 0299-93-1111
F A X 0299-93-1112

2. 開場年月日 平成3年4月29日

3. 理事長 平野 和男 (S7.11.30生)

俱楽部代表者 平野 和男

4. 俱楽部分科委員長 選任中

5. 支配人 宮内 豊美 (S28.5.15生)

6. 俱楽部概要

ワイルドダックカントリークラブは利根川流域、水郷筑波国立公園に位置し、豊かな水と緑に恵まれ日本有数の鴨の生育飛来地としても知られており、ゴルフ場内にも多数の鴨が飼育されております。またコース内には約5万本の樹木が植樹され、開場10年を経ようとする現在、見事な緑と空間を演出しております。

コースは陳清波氏の監修を受け、田園型の中に適度なアソシュレーションを設け、豊富な水を利用した池を18ホール中16ホールに配し庭園風の景観を醸し出しております。同時にバンカーや樹木を随所にレイアウトし、初心者には楽しく、上級者には厳しいエキサイティングな醍醐味とともに、高度なテクニックを充分に発揮できるよう設計されており、ご来場プレイヤー全員の皆様に楽しんでいただけるものと確信致しております。

名物ホールは9番ミドルホール、池の中に人工的に作られたティグランドと、広角の視野の中、水・フェアウェイ・樹木の調和した景観は絶景。距離のある池越えのミドルホールで第1打のナイスショットが要求されます。

アクセスは自動車の場合、東関東自動車道、佐原ICまたは潮来ICから約20分に位置し、東京都心から約90kmで東京方面からのお客様も多数ご来場いただいております。

平成12年度 関東ゴルフ連盟 役員・委員一覧表

平成12年2月22日現在/※50音順

役員(56名)

理事長	福田 彰(黒川ハイランド)
副理事長	中井文治(東京)
常務理事	尾閑秀夫(武藏)
理事	相山武夫(横浜)(3議員) 海老原亀久寿(水戸グリーン) 小宮山義孝(武藏野) 斎藤文志郎(フォレスト) 田中経策(クリンレイ) 前川昭一(體コンドミニアム) 渡邊満之助(エンゼル) 新井安寿(武藏) 稻川廣政(春日居) 岩宮浩(湯河原) 大坪成彬(千葉) 鬼沢忠治(白帆) 川上睦水(塙橋) 小坂健介(長野) 篠崎勝宏(佐野) 菅浦(姫ヶ崎) 田村圭士(小田原・松田) 塚本清士郎(源氏山) 南学正昭(ミオス菊川) 人見隆清(東京グリーン) 福島寿克(塙橋) 前田福三郎(ザ・農野山) 森川幸美(GMG八王子) 山田六一(諏訪湖) 吉澤兵左(鹿児島) 玉井英二(姫ヶ崎) 鈴木太郎(湯河原)
監事	中井文治(東京) 古賀始(茨城) 赤羽功(平高麗) 小宮山義孝(武藏野) 斎藤文志郎(フォレスト) 滝沢武(都賀) 萩原剛(草津) 渡邊満之助(エンゼル)
監顧	新井安寿(武藏) 古賀始(茨城) 赤羽功(平高麗) 小宮山義孝(武藏野) 斎藤文志郎(フォレスト) 滝沢武(都賀) 萩原剛(草津) 渡邊満之助(エンゼル)

総務委員会(12名)

委員長	中井文治(東京)
副委員長	古賀始(茨城)
委員	赤羽功(平高麗)
委員	小宮山義孝(武藏野)
委員	斎藤文志郎(フォレスト)
委員	滝沢武(都賀)
委員	萩原剛(草津)
委員	渡邊満之助(エンゼル)

競技委員会(63名)

委員長	新井安寿(武藏)
副委員長	村圭司(小田原・松田)
委員	平山誠一(江戸崎)
委員	安藤功(箱根)
委員	飯盛節一(宇都宮)
委員	出田健(川越)
委員	岩田淳子(横浜)
委員	梅澤文雄(横浜)
委員	大島義治(同部ササン)
委員	小澤清水(セントラル)
委員	加藤勝栄(相模原)
委員	龟谷修(東名厚木)
委員	熊澤良一(箱根)
委員	小島正明(諏訪湖)
委員	近藤征江(鹿児島)
委員	島村龍男(横浜)
委員	鈴木昭満(大利根)

関戸新一郎(甲府国際)

高頭正毅(長岡)
竹下修一(相模)
田辺嘉一(飯能)
相山武夫(横浜)(3議員)
海老原亀久寿(水戸グリーン)
小宮山義孝(武藏野)
斎藤文志郎(フォレスト)
田中経策(クリンレイ)
前川昭一(體コンドミニアム)
渡邊満之助(エンゼル)
新井安寿(武藏)
稻川廣政(春日居)
岩宮浩(湯河原)
大坪成彬(千葉)
鬼沢忠治(白帆)
川上睦水(塙橋)
小坂健介(長野)
篠崎勝宏(佐野)
菅浦(姫ヶ崎)
田村圭士(小田原・松田)
塚本清士郎(源氏山)
南学正昭(ミオス菊川)
人見隆清(東京グリーン)
福島寿克(塙橋)
前田福三郎(ザ・農野山)
森川幸美(GMG八王子)
山田六一(諏訪湖)
吉澤兵左(鹿児島)
玉井英二(姫ヶ崎)
鈴木太郎(湯河原)

顧問

関谷龍太郎(東宇都宮)
高橋一雄(日光)
田中克幸(嵐山)
戸田光太郎(相模)
中島敬夫(狭山)
野本俊夫(袖ヶ浦)
原田町子(習志野)
平野正(カドアソブ)
本多隆将(東京)
宮本忠志(武藏)
矢野隆男(富士山)
山崎茂(鹿児島)
山武男(白帆)
山渡(相模)
河西章一(セントラル)

●都県アマチュアゴルフ団体委員会(11名)

小林松男(新潟県)
田中千野(山梨県)
竹中十良雄(栃木県)
三木征一郎(埼玉県)
白井尚(東京都)
勝亦弘次(静岡県)

●競技・規則研修部会(15名)

村圭司(小田原・松田)
稻川廣政(春日居)
織田總三郎(愛媛)
桜井真一(高坂)
鈴木昭滿(大利根)
野口正三(姫ヶ丘)
水本鉄磨(鎌生)
山崎茂(鹿児島)
新井安寿(武藏)
加藤勝栄(相模原)
平山誠一(江戸崎)

●コース選定部会(5名)

新井安寿(武藏)
加藤勝栄(相模原)
平山誠一(江戸崎)

ハンディキャップ委員会(52名)

渡邊満之助(エンゼル)
斎藤文志郎(フォレスト)
原田英正(袖ヶ浦)
浅見基彦(フレイズ)
今泉忠史(栃木)
大竹忠夫(高坂)
加藤清(船橋)
射残嘉一郎(鹿児島)
宗田忠(栃木)
許斐順子(箱根)
※佐藤長良(鹿児島)
須崎昭平(武藏)
田村圭司(小田原・松田)
山田八郎(東名)
野口正三(姫ヶ丘)
飯沼武久(日光)
射残嘉一郎(鹿児島)
大竹忠夫(高坂)
加藤清(船橋)
龟田秀夫(日光)
桑原正明(美野里)
許斐順子(箱根)
※佐藤長良(鹿児島)
須崎昭平(武藏)
田原和夫(姫ヶ丘)
小澤清水(セントラル)
加藤勝栄(相模原)
龟谷修(東名厚木)
熊澤良一(箱根)
小島正明(諏訪湖)
近藤征江(鹿児島)
島村龍男(横浜)
鈴木昭満(大利根)

鈴田信宏(大利根)

高頭正毅(長岡)
竹下修一(相模)
田辺嘉一(飯能)
相山武夫(横浜)(3議員)
小宮山義孝(武藏野)
斎藤文志郎(フォレスト)
滝沢武(都賀)
原田町子(習志野)
平野正(カドアソブ)
本多隆将(東京)
宮本忠志(武藏)
矢野隆男(富士山)
山崎茂(鹿児島)
山武男(白帆)
山渡(相模)
河西章一(セントラル)

顧問

関谷龍太郎(東宇都宮)
高橋一雄(日光)
田中克幸(嵐山)
戸田光太郎(相模)
中島敬夫(狭山)
野本俊夫(袖ヶ浦)
原田町子(習志野)
平野正(カドアソブ)
本多隆将(東京)
宮本忠志(武藏)
矢野隆男(富士山)
山崎茂(鹿児島)
山武男(白帆)
山渡(相模)
河西章一(セントラル)

●都県アマチュアゴルフ団体委員会(11名)

松尾一(高知)
※村松邦一(高知)
八木秀夫(立科美香)
山田八郎(東名)
大原慎二(姫ヶ丘)
顧問

●コース・レート委員会(18名)

細田欽也(長野県)
木村公一(群馬県)
中村貞(茨城県)
小松幹司(千葉県)
中野弘治(神奈川県)
宮本義久(静岡県)

蛭田信宏(大利根)
藤井忠(浜野)
※村松邦一(高知)
八木秀夫(立科美香)
山田八郎(東名)
大原慎二(姫ヶ丘)
顧問

●都県アマチュアゴルフ団体委員会(11名)

松尾忠(新潟県)
戸田光太郎(相模)
馬場明(長野)
平田成二(カヤクイー)
発知洋一(カヤクイー)
松井義明(日高)
蛭田信宏(東京都)
宮本義久(静岡県)

●コース・レート委員会(18名)

細田欽也(長野県)
木村公一(群馬県)
中村貞(茨城県)
小松幹司(千葉県)
中野弘治(神奈川県)
阪田哲男(袖ヶ浦)
白井敏夫(徳高)
中野弘治(相模)
平本桂樹(富士山)
森博英(姫ヶ丘)
和田光司(東山)
顧問

月例競技委員会(21名)

斎藤文志郎(フォレスト)
中野弘治(相模)
岡田光正(東山)
岡田光史(東山)
佐久間義雄(姫ヶ崎)
内藤正幸(桜ヶ丘)
日暮俊明(扶桑)
松井和哉(東京みゆり)
吉田八郎(静岡)
渡邊満之助(エンゼル)

月例競技委員会(21名)

斎藤文志郎(フォレスト)

ジュニア育成委員会(83名)

前川昭一(鶴ヶ丘)
大久保蕃(桜ヶ丘)
岡田光正(東山)
川島英雄(高坂)
小池茂(モーフィー)
田中克幸(鹿児島)
野口正三(姫ヶ丘)
水本鉄磨(鎌生)
山崎茂(鹿児島)
新井安寿(武藏)
野口正三(桜ヶ丘)
山田八郎(東名)

グリーン委員会(24名)

古賀始(茨城)
小宮山義孝(武藏野)

税対策委員会(22名)

小宮山義孝(武藏野)

体協部会体協委員会(12名)

尾閑秀夫(武藏)

参与

蛭田信宏(大利根)

中島廣行(伊豆にらやま)
沼田正巳(秦野)
野本俊夫(袖ヶ浦)
広瀬浩二(甲府国際)
藤巻厚二(業)
前田修一郎(森林公園)
松井義明(日高)
宮本清(小川)
矢島智都子(富士士)
山崎宏(舞)舞
米澤英樹(大利根)
石井澤(水城高)
蛭田信宏(東京都)
宮本義久(静岡)
森肇(姫ヶ谷)
安間章浩(佐賀シガタ)
吉岡徹治(藤岡)
沼尾守(岡田チサン)
根本太満(水戸)
林裕美子(大利根)
廣瀬康夫(程ヶ谷)
堀川隆一(我孫子)
松下宗嗣(モリノブ)
森肇(姫ヶ谷)
矢島智都子(富士士)
山崎宏(舞)舞
米澤英樹(大利根)
石井澤(水城高)
蛭田信宏(東京都)
宮本義久(静岡)
森肇(姫ヶ谷)
安間章浩(佐賀シガタ)
吉岡徹治(藤岡)
沼尾守(岡田チサン)
根本太満(水戸)
林裕美子(大利根)
廣瀬康夫(程ヶ谷)
堀川隆一(我孫子)
松下宗嗣(モリノブ)
森肇(姫ヶ谷)
安間章浩(佐賀シガタ)
吉岡徹治(藤岡)
沼尾守(岡田チサン)
根本太満(水戸)
林裕美子(大利根)
廣瀬康夫(程ヶ谷)
堀川隆一(我孫子)
松下宗嗣(モリノブ)
森肇(姫ヶ谷)
安間章浩(佐賀シガタ)
吉岡徹治(藤岡)

広報委員会(10名)

高橋正孝(日高)
宮元照夫(鬼怒川)
塙川博英(東山)
塙川通敬(鬼怒川)
舟橋一芳(江戸崎)
山田和臣(藤ヶ谷)
山根ミドリ(日高)
片山晴美(越生)
杉山通敬(鬼怒川)
舟橋一芳(江戸崎)
山田和臣(藤ヶ谷)
吉川英明(姫ヶ谷)

税対策委員会(22名)

小宮山義孝(武藏野)
相澤伸幸(太田双葉)
伊室一義(東松山)
加藤重正(千葉夷隅)
古賀智美(天城にっかつ)
佐藤良長(鹿沢)
田中經策(クリンレイ)
玉川隆一(横浜)
塙川雄(横浜)
佐野公胤(我孫子)
久保勇(郡)
佐野公胤(郡)
白石行宏(姫ヶ谷)
平林治平(諏訪湖)
松本秀夫(横浜)
八木一郎(武藏)
森川孝志(GMG八王子)

参与

古賀始(茨城)
小宮山義孝(武藏野)
相澤伸幸(太田双葉)
海老原寿人(郡)
久保勇(郡)
佐野公胤(我孫子)
白石行宏(姫ヶ谷)
鈴木正治(府中)
萩原原壽(武藏)
塙崎聰(鶴ケ谷)
久保聰(鶴ケ谷)
白石行宏(姫ヶ谷)
福山琢磨(武藏)
松本秀夫(横浜)
八木一郎(武藏)
森川孝志(GMG八王子)

参与

尾閑秀夫(武藏)
斎藤文志郎(新潟県)
平林治平(諏訪湖)
山口口(群馬県)
根本太満(茨城県)
小松幹司(千葉県)
伊澤淳一(静岡県)

総会・理事会・分科委員会

平成12年度
第52回 通常総会議事録

日 時 平成12年2月22日（火）
午前10時
場 所 ホテルニューオータニ
麗の間

福田理事長定刻議長席に着き、加盟488俱楽部（除く準会員12俱楽部、1団体）中、委任状も含め362俱楽部の出席となり、総会は適法に成立の報告の後、11年の総括、事業報告、及び12年度活動方針が示され、満場一致にてこれを承認した。
次いで、上程議案審議に先立ち議事録署名者には、渡邊満之助、赤羽功両氏が指名された。

—決議事項—

第1号議案

「平成11年度事業報告、ならびに一般会計・特別会計決算の承認を求める件」
福田理事長の指名により、佐藤事務総長より、一般・特別会計の決算報告と玉井監事の監査報告がなされ、原案通り承認可決された。

第2号議案

「平成12年度事業計画、ならびに一般会計・特別会計予算案の承認を求める件」
尾閑副理事長、予算編成の基本方針、並びに各会計の具体案、骨子の説明の後、指名により事務総長詳細に報告を行い、原案通り承認可決された。

第3号議案

「連盟規約の一部改正の件」
指名により事務長、現規約第2章組織、及び準会員細則についての一
部改正につき、具体的箇所の説明が
なされ原案通り承認された。

報告事項

「(財)日本ゴルフ協会平成11年度事業報告、および決算報告、ならびに平成12年度事業計画、および予算に関する件」
佐藤事務総長次記報告を行い、承認された。
12年度事業計画、および予算案はすでに加盟俱楽部に送付済である。
11年度事業報告、および決算報告については、2月29日開催のJGA理事会終了後に送付の予定である。

平成12年度 第1回 理事会議事録

日 時 平成12年2月22日（火）
午後12時45分
場 所 ホテルニューオータニ
麗の間

出席者

福田理事長
中井、古賀、尾閑各副理事長
赤羽、海老原、楠木、小宮山、
小山、斎藤、田中、藤井、前
川、吉田、渡邊各常務理事
新井、伊藤、福川、磐田、岩
宮、太田、大原、鬼沢、金井、
古賀（邑）小坂、神場、高橋、
田村、塚原、塚本、南学、萩
原、人見、広中、松本、森川、
吉岡各理事

—討議 及び 決議事項—

その他

ノースショアカントリークラブ古賀
俱楽部代表者より、JGA組織問題
につき質疑提議がなされ、福田理事長、中井副理事長詳細に説明、了承された。

以上をもって、総会の議事審議を終了、
福田議長11時35分閉会を宣した。

平成12年2月22日

議事録確認署名者

議 長 福田 彰 (印)

署名者 赤羽 功 (印)

渡邊満之助 (印)

1. 新規加盟俱楽部入会審査の件

2月22日現在正会員として加盟申請のあった、次記2俱楽部につき慎重審議の結果加盟を承認した。

①アカデミアヒルズカントリークラブ（千葉県）準会員より変更
②ワイルドダックカントリークラブ（茨城県）
従って正会員総加盟俱楽部は、489俱楽部となった。

2. 平成12年度分科委員長選任の件

選任方法については、議長一任となり、次記の諸氏を指名、これを承認

総会・理事会・分科委員会

第2会場 越生ゴルフクラブ

決勝日 平成12年5月29日(月)～30日(火)

会 場 第1日目

武蔵カントリークラブ 箕

井コース

第2日目

武蔵カントリークラブ 豊

岡コース

藤、亀井、亀ヶ谷、国吉、熊

澤、小池、小嶋、小山、近藤、

坂井、代田、鈴木、瀬尾、関

戸、関谷、高頭、高橋、竹下、

田中、田辺、戸田、中沢、中

島、馬場、原田、平野、発知、

本多、松井、宮本、矢島、矢

野、山崎滋、山崎茂、山田武、

山崎博、山田保、山部、吉野、

渡辺各委員

河西顧問

小林、赤羽、田中、石原、三

木、小泉、勝亦、各都県アマ

チュア団体委員

6. その他

佐藤事務総長より、3年計画による最終年度の「G-sys」無料貸与について
は俱楽部側事情もあり、困難が予測されるので理事俱楽部、ハンディキヤップ委員会等の異なる応援体制を要請、これを了承した。

3. 平成12年度分科委員選任の件

選任方法を踏ったところ、本日開催の委員長会議に一任するところとなり全員これを承認した。

4. (財)日本ゴルフ協会、平成12年度分科委員選任の件

選任方法を踏ったところ、理事長、副理事長一任となり、(財)日本ゴルフ協会に候補者名簿を提出することとした。

平成12年2月22日

議事録確認署名者

議 長 福田 彰 (印)

署名者 金井彌壽郎 (印)

古賀 色美 (印)

1. 新任委員紹介について

事務総長より全委員、ならびに新任委員の紹介がなされた。また、新井委員長より、退任された委員のこれまでの活動に対し謝辞が述べられた。

2. 今年度活動方針について

新井委員長より、次記活動方針が示され、全委員これを確認した。
「今年度は、連盟はじまって以来の競技数となり、委員諸氏の倍旧のご尽力、ご協力をお願いしたい。
競技の開催は、加盟俱楽部との信頼、友好関係を保つ場であり、打合せから競技運営にいたるまで公務と考え、規則に則った正しいゴルフの普及促進に努め、細かい指導を心がけていただきたい。」

平成12年度 第1回 競技委員会議事録

日 時 平成12年3月6日（月）

午後1時

場 所 ダイヤモンドホテル 会議室

出席者 福田理事長

新井委員長

田村・野口・平山・山田（八）

各副委員長

安藤功、飯盛、市川、出田、

福川、岩田、魚本、梅澤、大

久保、大島、荻島、小澤、加

総会・理事会・分科委員会

また、今年度より女子にも委員に就任していただいたが、担当班に拘らず、フリーの立場で積極的に競技の運営に携わっていただきたい。同様に各都県アマチュア団体委員の諸氏にも、積極的に競技運営に関わっていただきたい。」

3. 副委員長、バイスキャップ、班編成、部会について
去る3月3日開催された正副委員長会議の議決に従い、委員長より昨年と同様とする旨の報告があり、全員これを承認した。

また、班編成についても昨年同様3班構成とし、各委員の所属班が指示され、これを承認した。
競技・規則研修部会、コース選定部会について、それぞれの部会に女子委員を登用したい旨の提案がなされ、人選については委員長一任とした。

4. 主催競技実施規定について

事務総長より、机上配布資料をもとに変更箇所等の詳細な説明がなされ、関東女子ゴルフ選手権競技、関東アマチュアゴルフ選手権競技、関東グランドシニアゴルフ選手権競技、関東俱楽部対抗競技について、原案どおり承認した。

アンダーハンディキャップ競技については、競技正副委員長会議、体協委員会、ハンディキャップ委員会にて検討した結果（体協会員・パ協会員の出場を承認し、出場ブロックを1会場設け、暫定ハンディキャップでも出場可とする。）の報告がなされ、これを承認した。
また、タイの決定方法について「マ

ッチング・スコアカード方式」をJGAにあわせ採用した旨の報告、ならびにその計算方法について詳細な説明がなされ、全委員これを確認した。

5. ローカルルール原案、競技管理基準について

田村副委員長より机上配布資料をもとに詳細な説明がなされた。

平成12年度版については、3月21日開催される、JGA競技委員会にて決定後、各委員に送付することとした。

6. 2000年新裁定、改定裁定、ローカルルールについて

田村副委員長より机上配布資料をもとに詳細な説明がなされた。

7. 各競技担当班について

各班に分かれ競技打合せ日等を決定した。

平成12年度 第1回 ハンディキャップ委員会議事録

日 時 平成12年3月7日（火）

正午

場 所 ダイヤモンドホテル会議室

出席者 福田理事長

渡邊委員長

原田各副委員長

浅見、射残、今井、今泉、白井、大竹、荻原、亀田、古賀、

許斐、小林、杉山、須崎、鈴木、関根、田原、佃、遠山、

中野、濱崎、平川、平山、蛭田、福田、藤井、松尾、八木、山田、横田各委員

大原顧問
松尾、細田、田中、中村、小松、中野各都県アマチュア団体委員
中尾氏（平山都県アマチュア団体委員代理）

—討議及び決議事項—

討議に先立ち、福田理事長より、今年度活動方針が示され、全員これを確認した。

1. 今年度活動方針について

渡邊委員長より、今年度の活動方針が示され、全委員これを確認した。
「当委員会は、すべてのゴルファーに公平公正なハンディキャップ査定を行なう、というJGAの方針に基づいて、「G-sys」の普及無料貸与策をとってきた。本年度は3ヶ月計画の最終年であり、加盟俱楽部以外のパブリックのゴルフ場、都県アマチュア団体、高等学校ゴルフ連盟、学生ゴルフ連盟、非加盟俱楽部にも導入を図りたい。委員諸氏の協力をお願いしたい。」

2. 副委員長、担当班、都県統括委員について

渡邊委員長より、標記議題について、机上配布資料を基に詳細な説明がなされ、全員これを承認した。

3. 「G-sys」普及について

福田理事長より、各委員のより一層の協力方の要請がなされた。

4. アンダーハンディキャップ競技について

事務総長より、以下の報告がなされ、全委員これを承認した。
「競技委員会、体協委員会にて検討の結果、各都県アマチュア団体会員、

(社)日本パブリックゴルフ場事業協会加盟ゴルフ場会員に今年度より、アンダーハンディキャップ競技への出場を承認することとした。
予選会場は、体協会員・パ協会員のために1会場設けることとした。」

5. JGAハンディキャップ委員会報告について

渡邊委員長より、机上配布資料を基に、
1) JGAハンディキャップの普及に関する件
2) 女子用コース・レートのハンディキャップに関する件
3) JGA公認コース・レートの有効期限制定期に関する件
について詳細な説明がなされ、全委員これを確認した。

平成12年度 第1回 コース・レート委員会議事録

日 時 平成12年3月3日（金）

正午

場 所 KGA会議室

出席者 福田理事長

大原委員長

岡田・前川両副委員長

生田、大久保、岡田（史）、佐久間、中野、日暮、平本、松岡、森、和田各委員

渡邊顧問

—討議及び決議事項—

討議に先立ち、福田理事長より、今年度活動方針が示され、全員これを確認した。

1. 今年度活動方針について

大原委員長より、今年度は査定申請が多くなることが予想されるが、委員諸氏の倍旧の協力方の要請がなされた。

● 堀野カントリー倶楽部(FT機上査定)

「バック・ティ」「ペントグリーン」
72.1

「レギュラー・ティ」「ペントグリーン」
69.2

「フロント・ティ」「ペントグリーン」
66.7

● 箱根カントリー倶楽部(改造機上査定)

「バック・ティ」「ペントグリーン」
73.0

「レギュラー・ティ」「ペントグリーン」
70.0

※変更なし

3. 査定スケジュールについて

富士グリーンヒルゴルフコース以下8俱楽部について、査定日を以下のように決定した。

● 長野カントリークラブ(FT機上査定)

飯綱・戸隠
「バック・ティ」「ペントグリーン」
72.0

「レギュラー・ティ」「ペントグリーン」
69.6

「フロント・ティ」「ペントグリーン」
68.4

戸隠・高妻
「バック・ティ」「ペントグリーン」
71.2

「レギュラー・ティ」「ペントグリーン」
69.3

「フロント・ティ」「ペントグリーン」
67.7

高妻・飯綱
「バック・ティ」「ペントグリーン」
71.2

「レギュラー・ティ」「ペントグリーン」
69.2

「フロント・ティ」「ペントグリーン」
68.0

● 富士グリーンヒルゴルフコース

4月11日（火）

● ウィルドダックカントリークラブ

4月19日（水）

● アバイディングクラブ

4月27日（木）

● 中央道晴ヶ峰カントリー倶楽部

5月25日（木）

● 萩原カントリークラブ

5月26日（金）

● グリーンパークカントリークラブ

7月3日（月）

● オリムピックカントリークラブ

次回委員会にて決定

● 武藏カントリークラブ・笹井コース

次回委員会にて決定

4. JGAコース・レート有効期限採用に伴う再査定について

大原委員長、ならびに渡邊顧問より、JGAコース・レートの有効期限を15

総会・理事会・分科委員会

年とするJGA理事会の決定事項、な
らびにそれに伴う査定後15年を経過
した俱楽部に対する再査定につい
て、机上配布資料をもとに詳細な説
明がなされた。これを受け、各委員
活発な意見交換がなされ、以下のこ
とを確認した。

「15年の有効期限は必要と思われる
が、それを経過した俱楽部の再査定
に関して以下の問題提起がなされ、
委員会として、正副委員長で構成す
る小委員会を設置し、KGA案を作成
し、JGAハンディキャップ委員会に
上程することとした。

- 再査定の必要性をさらに啓蒙する
- 未だ固定されていない査定方法の
早急なる確立
- 再査定を望まない俱楽部への対処
策
- 再査定費用の軽減策
- 再査定俱楽部の準備作業の簡素化
- 査定委員の増員」

平成11年度 第9回 月例競技委員会議事録

日 時 平成12年2月4日（金）

12時30分

場 所 KGA会議室

出席者 斎藤委員長

山崎、中野各副委員長

岡野、小池、桜井、星野、松

井各委員

学生連盟委員

—討議及び決議事項—

1. 1月度競技報告及び総括

中野副委員長より下記の報告及び総

括がなされた。

「朝から風もなく、1月としては大変
暖かい1日であった。毎年の開催で
俱楽部側の受け入れ態勢は万全、コ
ースの状態、グリーンの状態共によ
く整備されており、男子トップは70

という好スコアであった。男子は出
場選手の半分以上が70台のスコアを
マークし、82ストロークからが次回
停止となったが、女子は70台のスコ
アがトップから数えてわずかに5人。
女子の距離設定はそれほど長かった
わけでもないが、冬の時期といふこ
ともあり、グリーン周りのアプロ
ーチやパッティングに苦労したのでは
ないかと思われる。また自署もれに
による失格者が1名出たが、初参加者
ということもあり、十分な注意を与
えた。ミーティングでは2000年度の
新規則について説明を行った」。

エントリー数他は以下のとおり
開 催 日 平成12年1月24日（月）
コ ー ス 程ヶ谷カントリー俱楽部
エントリー 154名
(男子108名、女子46名)
欠 席 者 数 事前連絡8名
(男子5名、女子3名)
無 断 欠 席 0名
出 場 者 数 143名
(男子100名、女子43名)
科 罰 者 0名
ミーティング欠席 0名
失 格 者 2名
(男子=遅刻、女子=
自署もれ)
棄 権 者 1名
次回プレーオフ《男子》
吹野耕一、宇野喜一郎

2. 1月月例出場資格者報告の件

男子632名（+10）女子241名（+5）
2月月例出場資格者確認の件
Hdcp処理未着のため、次回委員会に
て報告

3. 2月のテーマ

- ボールマークの修復の徹底
- 使用しないティ・グラウンドの歩
行を禁止する
- グリーン上でのプレーは特に敏捷
にすること

4. その他

●佐藤事務総長より、平成12年度（4
月から）より、若干名の女子委員
採用を検討中であることの報告が
なされた。候補者の選出について
は月例出場有資格の登録者の中か
ら数名とし、山崎、中野両副委員
長で検討していくことを確認し
た。

●最近の初参加者の中で、月例競技
開催目的及び参加規定について理
解の浅い選手が見受けられるた
め、参加規定と注意事項をスター
ト表の発送時に同封し、熟読の上、
参加するよう注意していくことと
した。また、ミーティング終了後
に初参加者のみを集め、月例競技
の開催意義について説明すること
とした。

平成11年度 第10回 月例競技委員会議事録

日 時 平成12年2月22日（火）

15時30分

場 所 KGA会議室

出席者 斎藤委員長

山崎、中野各副委員長
岡野、小池、桜井、島田、額
賀、平山、星野、松井各委員
学生連盟委員

失 格 者 2名

(男子1名、女子1名=
自署もれ)
棄 権 者 0名
次回プレーオフ《男子》
吹野耕一、宇野喜一
郎（1月度持ち越し）

—討議及び決議事項—

1. 1月度競技報告及び総括

中野副委員長より下記の報告及び総
括がなされた。

「朝の気温は-4℃と非常に寒く、ま
た午後からは風が強くなり、難しい
コンディションであった。使用グリ
ーンが例年と違ったため初めての選
手も多く、戸惑っているように見受け
られたが、俱楽部側の協力もあり、
競技は順調に終了することができ
た。バンカーの慣らし方が不十分で
あったため、ミーティングにて注意
を与えた。また今回は佐藤事務総長
より、今後のKGAの活動方針や、ゴ
ルフ界の現状などにつき話しがあ
り、有意義な月例競技会であった」。

エントリー数他は以下のとおり
開 催 日 平成12年2月18日（金）
コ ー ス 東京ゴルフ俱楽部
エントリー 158名
(男子100名、女子58名)

欠 席 者 数 事前連絡6名
(男子4名、女子2名)
当日連絡2名
(男子2名)

無 断 欠 席 0名
出 場 者 数 150名
(男子94名、女子56名)
科 罰 者 0名
ミーティング欠席 0名

2. 2月月例出場資格者報告の件

男子627名（-5）女子240名（-1）
3月月例出場資格者確認の件
Hdcp処理未着のため、次回委員会に
て報告

3. 3月のテーマ

- ボールマークの修復の徹底
- 使用しないティ・グラウンドの歩
行を禁止する
- プレーの進行に留意し、前の組と
の間隔をあけないこと

4. その他

●佐藤事務総長より、前回委員会で
報告事項の女子委員選任の件につ
いて、本日開催の理事会および委
員長会議にて正式に承認されたこ
との報告があり、全委員これを確
認した。尚、すでに数名の候補者
が選出されているが、選任につい
ては斎藤委員長に一任とした。

2. 3月度競技報告及び総括

中野副委員長より下記の報告及び総
括がなされた。

「今年の関東アマ決勝会場、また平成
11年度の最終月ということで参加人
数は162名と盛況であった。朝から
冷たい風が吹きつける中、男女共に
好成績であった。ミーティングには
志水支配人にも出席いただき、グリ

総会・理事会・分科委員会

斎藤委員長

中野副委員長

岡野、岡野、加藤、小池、小
坂、桜井、島田、星野、松井、
三木、湯原各委員

学生連盟委員

—討議及び決議事項—

討議に先立ち、佐藤事務総長より女
子委員選任についての経緯の説明が
なされた。全委員自己紹介の後、福
田理事長より連盟活動方針および月
例競技の開催意義が説かれ、全委員
これを確認した。

「ゴルフ人口の減少、モラルの低下、
また団体問題等、様々な問題が起き
ている中で、アマチュアゴルファー
としてどうあるべきかということを
念頭に置き、特に月例委員会委員、
参加選手には範を示してほしい」。

1. 今年度活動方針

斎藤委員長より、今年度活動方針が
示され、全委員これを確認した。
「最近数年間で新しい参加選手が増加
の傾向であるが、一部の参加選手に
月例競技の開催意義について理解の
浅い人が多く、委員会として周知徹
底をはかりたい」。

2. 3月度競技報告及び総括

中野副委員長より下記の報告及び総
括がなされた。

「今年の関東アマ決勝会場、また平成
11年度の最終月ということで参加人
数は162名と盛況であった。朝から
冷たい風が吹きつける中、男女共に
好成績であった。ミーティングには
志水支配人にも出席いただき、グリ

総会・理事会・分科委員会

ーンのコンディション、アマ決勝に向けてのコースセッティング等、貴重なお話をいただいた。今回も携帯電話の持ち込み等、月例競技の参加資格を理解していない選手が数名おり、4月からの新年度以降も厳しく注意にあたり、本競技の目的を再認識させていきたい」。

エントリー数他は以下のとおり

開催日 平成12年3月21日（火）

コース 狛山ゴルフ・クラブ

西・東コース

エントリー 162名

（男子110名、女子52名）

欠席者数 事前連絡10名

（男子8名、女子2名）

当日連絡3名

無断欠席 0名

出場者数 149名

（男子101名、女子48名）

科間者 0名

ミーティング欠席 0名

失格者 0名

棄権者 0名

次回プレーオフ《女子》

原慈子、岡橋早里

3. 3月例出場資格者報告の件

男子630名（+3） 女子241名（+1）

4月月例出場資格者確認の件

Hdcp処理未着のため、次回委員会にて報告

4. 4月のテーマ

●ボールマークの修復の徹底

●使用しないティ・グラウンドの歩行を禁止する

●ディボット跡の修復の徹底

5. 年間獲得ポイントおよび関東アマ、女子決勝有資格について

●3月例をもって、平成11年度の月例競技を終了し、年間最高得点者は男子が石井保行選手（清川）、女子は大木美佳選手（児玉SP）に決定した。また、男子30位（52点）、女子10位（21点）までが、関東アマ、関東女子の決勝有資格と確定し、全委員これを確認した。

6. その他

●KGA受付の署名漏れの選手の扱いについて討議の結果、次回1回出場停止とし、当日の成績には入れないこととした。

●スタート表に記載の注意事項の中で、基本的な事項については削除することとした。また、スタート時に配布する今月のテーマについても各組1枚とし、選手各自の意識向上をはかるとした。

●女子の距離設定については、引き続き各会場によって検討していくこととしたが、ただ距離を短くするだけではなく、様々なクラブ選択を必要とする距離設定を検討し、技術の向上をはかるとした。

●社会人の参加選手は増加の傾向にあるものの、ジュニアを含めた学生選手の参加者は逆に減少の傾向にあり、委員会として検討していくこととした。例えば特定の時期（夏休み等）については特別参加を認めるようなことを考えいく。

これら諸問題を含め、様々な面において改善、改革していくことを全委員、確認した。

員、確認した。

平成12年度 第1回 ジュニア育成委員会議事録

日 時 平成12年3月13日（月）

午後2時

場 所 ダイヤモンドホテル 203

出席者 前川委員長

大久保、大鷲、荻原、笠川、田辺、藤園、吉川各副委員長
荒井、安藤、池頭、市川、宇賀神、大野、鬼澤、小原、唐木、神戸、北本、小林、佐藤（伊）、嶋田、杉山（文）、田村、東福寺、中島、沼田、林、広瀬、発知、前田、増岡、宮本、矢島、山崎、吉岡、米澤各委員

—討議及び決議事項—

討議に先立ち、佐藤事務総長より全委員を紹介し、前川委員長あいさつの後、順次議題審議を行った。

1. 平成12年度活動方針について

前川委員長より日本ゴルフ界が低迷している状況を、「余暇開発センター白書」に基づき次記の説明があった。

福田理事長の今年度活動方針でもジュニア問題を取り上げているが、特に少子高齢化やジュニアゴルファーの減少により、量的には衰退、質的には荒廃がこれからのゴルフ界にとって大きな問題となってくる。ジュニア育成をこれまで以上に展開したい。具体的には、

①ジュニア育成の環境作り

（財）日本ゴルフ協会、（社）プロゴルフ協会、（社）女子プロゴルフ協会、（社）全日本ゴルフ練習場連盟、（社）日本ゴルフ用品協会の各団体が協力してジュニア育成の環境作りを進めて行く。

②都県単位でのジュニア育成ゴルフが団体の正式種目となったが、競技内容、運営にまだ問題があった。各都県協会から2名を当ジュニア委員会に推薦いただき協同に育成活動にあたりたい。

③利用税撤廃運動の促進
ジュニア育成委員会としても具体的な活動をしたい。

2. 副委員長、委員選任の件

前川委員長より次記の諸氏が副委員長として全員留任したことの報告があり、全員これを確認した。

●副委員長

大久保、大鷲、後朗、荻原知昭、川島英雄、田辺嘉一、笠川喜久男、藤園賢雄、吉川英明
また佐藤事務総長から新任委員の紹介があった。

●新任委員

宇賀神佐英、小原健司、唐木千曉、林裕美子、宮本清

3. 班編成について

大鷲副委員長より、3班に分けるも、具体的な活動は班別に拘らずご協力いただきたいとの要請があった。

各班の統括副委員長は昨年どおり。
1班 笠川、藤園各副委員長
2班 田辺、川島、荻原各副委員長
3班 大鷲、大久保各副委員

総会・理事会・分科委員会

なった。高等学校ゴルフ連盟、学生連盟にも浸透するように働きかけることとした。

●スクールや競技時に、それぞれジュニア委員が異なる指導をすることがあり、指導内容を再検討して同一のものにすることの必要性が論じられた。また、夏までドレスコードなどをつくりジュニア委員に通知することを確認した。

平成12年度 第1回 広報委員会議事録

日 時 平成12年3月24日（金）

午後3時

場 所 KGA会議室

出席者 高橋委員長

宮元副委員長

石川、塙田、杉山、山田、山根、吉川各委員

—討議及び決議事項—

高橋委員長あいさつの後、順次議題審議を行なった。

1. 平成12年度活動方針について

①特別委員会として、関東ゴルフ連盟改革実行委員会が新設された。これからKGAのあり方、特に財政・組織・競技等の改革案を検討する重要な委員会であり、当委員会としても適宜報道したい。

②競技、ハンディ、月例、ジュニア、広報委員会に女性委員が選任された。ゴルフ人口をみても、全体の13%は女性であり、これからゴル

総会・理事会・分科委員会

フ振興策を考える上でも、女性ゴルファーの立場から意見を聞き役立てたい。

③インターネットの導入、活用についても検討したい。

④「FAXサービス」が好評なので、「KGAニュース」等で多くの人にPRしていきたい。

2. 副委員長、委員選任の件

高橋委員長より、退任、新任者の経緯が説明された。

●井上 営氏は、健康上の理由により退任。

●新委員(女子委員)として山根ミドリを選任。

●宮元副委員長、石川、片山、塙田、杉山、舟橋、山田、吉川委員は留任、以上を全員確認した。

3. KGAニュースNo.70企画案

①総会 写真 石川委員
理事長の今年度活動方針全文掲載する。質問者に対しては写真とキャプションで紹介する。

②ゴルファーのためのマナー基礎講座(5)

執筆 スポーツニッポン編集委員
鷲巣 力氏に依頼

③座談会 司会 高橋委員長・担当 山根委員・写真 片山委員
女子委員誕生 各委員会の女子委員から「これからのKGA」「これからゴルフ界」について意見を聞く。

④春季ジュニア・ゴルフスクール 取材 吉川委員・写真 石川委員
4月3日茨城ゴルフ俱楽部のスケ

ルを取材する。

⑤総会、理事会、各分科委員会議事録 事務局

⑥月例成績表、お知らせ 事務局

4. 競技取材担当の件

別紙のように、上期競技取材担当を決定し、全員これを確認した。

も各都県でばらつきがあった。関係議員からも同様の指摘があった。以上のことから、12年度は各都県毎に於いても活発に展開したい。

②本年度も、署名活動は引き続き行なう。方法としては、昨年度はJGAが主体であったが、本年度はゴルフ関連団体を表にして行ないたい。

③主体は、あくまでゴルファーであり、本年度は各都県のアマチュアゴルフ団体(体協)の協力を得てゴルファー一人一人の声を反映する活動にしたい。

以上により審議を終了し、小宮山委員長14時10分に閉会を宣した。

平成12年度 第1回 税対策委員会議事録

日 時 平成12年3月22日(木)

正午

場 所 ダイヤモンドホテル 202

出席者 福田理事長

小宮山委員長

井上、伊室、大澤、加藤、桑原、古賀、坂上、田中、田原、玉置、塚本、中川、萩原、平林、松本、森川、八木各委員

平成12年度 第1回 体協部会体協委員会議事録

日 時 平成12年3月3日(木)

午後3時

場 所 KGA会議室

出席者 福田理事長

尾閑委員長

斎藤副委員長

平林、進藤、山口、小松、若尾各委員

代理出席 小山田孝士氏(池田委員代理)

—議題—

1. 平成12年度活動方針について
始めに、小宮山委員長より平成11年度の「ゴルフ場利用税撤廃運動」の総括、署名者数集計結果の報告があった。

①昨年度の運動の総括としては、文部省の省議決定までこぎつけたのは一定の成果と考える。中央での活動と比べて、地方レベルでの活動がいま一つだった。撤廃署名數

討議に先立ち、福田理事長より、今年度活動方針が示され、全員これを確認した。

1. 今年度活動方針について

尾閑委員長より、次記活動方針が示され、全委員これを確認した。

JGAはすべてのゴルファーを対象にした団体となっており、いかにゴルファーを煽り起こし、ゴルフ人口を増やすか、ゴルフ振興策を図ることを活動の基本方針としている。
また、KGAにおいては、競技委員会、ハンディキャップ委員会に体協団体委員として参加いただいているが、積極的に連盟と関わり、共通の目的に向けて協同してほしい。』

2. ジュニア育成委員会都県アマチュア団体委員選任について

標記議題について、事務総長より、以下のとおり詳細な説明と提案がなされ、これを承認した。

「昨年度より、競技、ハンディキャップ両委員会に委員を推薦いただいたが、各都県におけるジュニアの育成、ジュニアゴルファーの掘り起こしを各都県単位に行なう必要があり、今年度より、ジュニア育成委員会にも委員の推薦をお願いしたい。人数については2名以内としたい。また、小松委員より以下の提案がなされた。

「千葉県は、ジュニアゴルファーの人口が多く、スクール等積極的に開催したいが、他県に比べ、プレー費等の高いことが問題となっている。KGA、JGAが各加盟俱楽部にジュニアゴルファーのラウンド、及び練習に関する費用の軽減を呼びかけていただきたい。また、高等学校ゴルフ連盟には、ゴルフをスポーツ科目に取り入れるよう運動をおこしていただきたい。」

3. 平成12年度、KGA・JGA主催競技 参加資格について

尾閑委員長より以下の説明がなされた。
『2月29日のJGA理事会において、日本スポーツマスターズへの参加が承認された。今後、3月14日に開催される日体協理事会にて正式決定される予定である。

また、費用負担は都県により異なるが、団体と違い、個人負担となるが、ぜひ、関東は全都県参加していただきたい。』

5. 都県のJGAハンディキャップ取得について

事務総長より、以下の説明がなされ、全委員これを確認した。
『開催事情が県によって異なり、加盟俱楽部会員と同じ都県別の予選会場にて、行うことの問題点がある、当委員会として、出場会場は、体協会員(含むJGA個人会員)を1会場設けてほしい。
また、ハンディキャップについても、当面加盟俱楽部会員同様、暫定ハンディキャップでも可としてほしい。』

●JGA主催競技について

尾閑委員長より次記報告がなされた。
「今年度より、JGA3オープン(日本オープン・女子オープン・シニアオープン)は、完全オープン化することになった。たとえば、日本オープンの場合、JGAハンディキャップ3までのアマチュアであれば、誰でも予選に出場することが出来ることとなった。将来的には、全競技の門戸開放も考えられる。ただし、JGAハンディキャップが参加の必須条件であり、体協会員のJGAハンディキャップ取得の具体化を進めてほしい。』

事務総長より以下の提案がなされ、全委員これを承認した。
『各都県で開催されている競技・規則研修会は、今後とも積極的に開催していく。特に未開催の群馬県、埼玉県、神奈川県は至急開催されたい。』

月例競技成績表

〔平成11年度1月月例〕平成12年1月24日(月) 程ヶ谷カントリー倶楽部

順位	氏名	クラブ名	OUT	IN	合計
1	吹野 耕一	都 賀	34	36	70
1	宇野喜一朗	北 浦	35	35	70
3	小川 陽一	扶 桑	36	36	72
3	石井 保行	清 川	35	37	72
3	中島 広行	伊豆にらやま	36	36	72
3	丹野 富寿	伊豆にらやま	38	34	72
3	中川 雅義	沼 津	36	36	72

順位	氏名	クラブ名	OUT	IN	合計
1	高橋香雅美	小 田 原	39	37	76
2	南雲 真理	岡部チサン	39	38	77
3	大木 美佳	冠スプリングス	40	38	78

コースレート69.6

※男子1位タイの吹野、宇野の両氏は、次回月例にてプレーを行ない、優勝者を決定する。

コースレート71.8

〔平成11年度2月月例〕平成12年2月18日(金) 東京ゴルフ倶楽部

順位	氏名	クラブ名	OUT	IN	合計
1	阪田 哲男	袖ヶ浦	35	35	70
2	加藤 優康	鹿 沼	36	36	72
2	石井 保行	清 川	35	37	72
4	木村 哲也	千 葉	35	38	73
5	神戸 誠	太 田 双葉	35	39	74
5	金 浩延	塙 原	35	39	74
5	福永 俊男	千 葉	36	38	74
5	平山 尚記	立 川 国際	36	38	74
5	石井 卓昌	中 津 川	36	38	74

コースレート72.2

※1月度のプレーは、吹野、宇野の両氏同順位のため、次回月例にて再度プレーを行ない、優勝者を決定する。

コースレート71.1

〔平成11年度3月月例〕平成12年3月21日(火) 狹山ゴルフ・クラブ 西・東コース

順位	氏名	クラブ名	OUT	IN	合計
1	中島 広行	伊豆にらやま	34	36	70
2	吹野 耕一	都 賀	37	36	73
2	高安 信行	セントラル	36	37	73
2	平山 芳照	北 浦	35	38	73
2	石井 保行	清 川	37	36	73

コースレート72.6

※1月度のプレーは、吹野耕一選手の優勝に決定しました。

※女子1位タイの原、岡橋の両氏は、次回月例にてプレーを行ない、優勝者を決定する。

コースレート70.4

お知らせ

関東ゴルフ連盟「加盟倶楽部便覧」の変更事項は次記のとおりです。訂正加筆をお願い申し上げます。

- 理事長
 ●阿賀高原ゴルフ倶楽部
 (新) 福田 実 (旧) 福田 正
 ●城山カントリー倶楽部
 (新) 長谷部元宏 (旧) 星野 保二
 ●長太郎カントリークラブ
 (新) 半田 学 (旧) 吉原 三郎
 ●麻生カントリークラブ
 (新) 宮崎 章 (旧) 四十宮正男

俱楽部代表者

- 鬼怒川森林カントリークラブ
 (新) 中野 淳 (旧) 蒲口 一郎
- 城山カントリー倶楽部
 (新) 長谷部元宏 (旧) 星野 保二
- 鹿島の杜カントリー倶楽部
 (新) 中野 勝己 (旧) 逸見 晃典
- 笠間カントリークラブ
 (新) 武政 英幸 (旧) 渡辺 俊一
- 狹山ゴルフ・クラブ
 (新) 中島 敏夫 (旧) 前田 哲男
- 加茂ゴルフ倶楽部
 (新) 青木 半治 (旧) 内田 勇人
- 麻生カントリークラブ
 (新) 宮崎 章 (旧) 四十宮正男
- 龍ヶ崎カントリー倶楽部
 (新) 小林 光春 (旧) 神戸 光男
- 笠間東洋ゴルフ倶楽部
 (新) 小山田裕昭
- 長太郎カントリークラブ
 (新) 半田 学 (旧) 吉原 三郎

- 支配人
 ●豊科カントリー倶楽部
 (新) 濑渡 一雄 (旧) 斎藤 泰洋
 ●カバヤゴルフクラブ
 (新) 中森 幸信 (旧) 守分 哲郎

- 所在地電話番号
 (訂正)
 ●(社)日本パブリックゴルフ場事業協会
 F A X 03-3563-2390
 ●津久井湖ゴルフ倶楽部
 F A X 0427-84-3359
 ●館山カントリークラブ
 F A X 0470-29-1783

体験会員

- 長野県ゴルフ協会
 F A X 026-238-3080
- 山梨県ゴルフ連盟
 (訂正)
 会長 横内 宏明
 事務局長 (新) 木村幸太郎
 (旧) 抽那 安守
- 埼玉県ゴルフ協会
 会長 (新) 尾間 秀夫
 (旧) 宮田 守夫
 事務局長 (新) 宮内孝次郎
 (旧) 発知 洋一
- 東京都ゴルフ連盟
 F A X 0426-91-3800
- 神奈川県ゴルフ協会
 (訂正)
 横浜市花咲町6-145 神奈川新聞社内
- 東京事務所
 ●小幡郷ゴルフ倶楽部 閉鎖
- 会社名
 ●小幡郷ゴルフ倶楽部
 (新) (株)小幡郷ゴルフ倶楽部
 (旧) 昭和総合開発㈱

アカデミヤヒルズカントリークラブが準会員から正会員になりました。

平成12年5月1日発行 KGA ニュース No.70

発行所／関東ゴルフ連盟 東京都千代田区麹町2-12 CTS麹町ビル8F TEL.(03) 5275-0391

発行人／福田 彰 編集／広報委員会